

第8回
西郷小学校



私たちの学校自慢

この連載は、市内の小中学校を訪ね、他の学校には負けないという「学校自慢」を子どもたちに紹介してもらおうコーナーです。

8回目は、西郷小学校です。運営委員会委員長の山田彩喜さん、副委員長の宮口雛妃さん、運営委員の田代大貴さん、江口智翔さんの4人に話を聞きました。

この学校の自慢は何ですか？

山田さん 「あいさつの声が大きいこと」

宮口さん 「掃除を無言で行うこと」

田代さん 「授業中の集中力」

江口さん 「本を借りる冊数」

地域で支える教育力



それぞれ異なる答えが返ってきましたが、大きな声と集中力に注目したいと思います。

西郷小学校は、平成16年に文部科学省から学力向上支援事業の指定を受け、当時の国政校長が、立命館大学の陰山英男教授が提唱している教育法「陰山メソッド」協力校に応募したのがきっかけで、毎週2〜3時間のスキルタイムという時間を設け、百ます計算や漢字書き取り、音読など「読み、書き、計算」を高める授業を行っています。

この、反復学習を行うことで、集中力が高まり、口に出して読むことで大きな声を出せるようになったそうです。6年生ともなると、分数の計算や古典作品の暗唱など内容も高度になります。その過程で感じた疑問を解決できるように、児童全員が辞書を持ち、いつでも引けるようになっていきます。



集中して読み、書き、計算力を高めるスキルタイム

とても大変なように感じますが、子どもたちに聞いてみると…。
山田さん「記憶力が向上した」
宮口さん「声を出せるようになった」
田代さん「計算力が高まった」
江口さん「語彙力が身についた」
と、苦しいどころか、逆に良かったという答えでした。自信につながっているのでしょうか。

陰山メソッドは、反復練習だけとりあげられがちですが、実は基本的な生活習慣確立も柱であり、家庭や地域の協力なしでは成り立たせません。この西郷地区では、地域見守り隊など、地域活動が盛んで、教育などにも協力的です。西郷小学校では、毎月1日をノーテレビ・ノーゲームデーとし、多くの家庭で参加をした結果、家族の会話や読書量が増えたそうです。学校で一番多く借りる子は月に30冊にも達し、学校に来たらまず図書室に向かう子ども多いということです。

多くの人の協力と温かいまなざしに包まれ、子どもたちもそのことを素直に受け入れ、学力向上という形で返そうとしているのかもしれない。

西郷小学校の自慢は「地域で支える教育力」と言えるでしょう。

校長先生から一言

西郷小の子どもたちに関わるすべての人たちへの感謝の心を忘れず、西郷地区のことを誇れる子どもに育ててください。

西郷小学校 校長 嘉村 毅